

縄文のビーナスプランより茅野市がめざす子どもの姿

「自分の人生・自分たちが生きていくまちの未来をえがくこども(生きる力)」

永明中学校区「めざす子ども像」 相手に生きる私

永明中学校区教育目標:「ふれあい つむぎあい 共に磨き 生きる力を高めていく 児童生徒」

永明中学校学校教育目標 「響き合い 磨き合い 誠実に生きる」 R5年度より

響き合い: 多様性を認め合い、互いの思いを感じ、敬い合う心の通い合い…「敬愛」

磨き合い: 学習、部活動、生徒会活動、地域における活動などを通して、内なる自分や共に活動する人との切磋琢磨することによって、自分を含む皆が輝き増すように努力すること…「努力」

誠実に生きる: 自分の生き方に対して誠実に向き合う、永中に引き継がれてきている精神…「誠実」

※令和6年度までは、「自律と共学」という言葉で、永中生の姿「自分の頭で考え、判断し、(友と学び合う) 行動する」とテーマを据えました。しかし、めざす子ども像と学校教育目標がある上にいろいろな言葉があると分かりにくい状況でもありました。そこで、あくまでも永中生の精神として意味づけ、学校教育目標の実現を通して「相手に生きる私」をめざすことにして、言葉としては外しました。

1 学校教育目標に寄せる学校長の願い

私たち教職員の使命、それは生徒が将来幸せに生きるための力(生きる力)をつけることだと考えています。だからこそ全力で日々精進していかなくてはならないと考えます。どの生徒にも良さや可能性があり、どのような行為にも背景や理由があります。「みんな同じ」と考え、私達の理屈を当てはめ、枠にはめていく必要はないと考えます。私たち教職員が、一人ひとりの多様な価値を認め、生徒や保護者の思いに心を寄せ、生徒の成長を願いながら教育活動を行っていくことにより、温かな学校が生まれると考えています。そのような学校を私は創りたいと考えています。

令和6年度から新校舎における小学生との共同生活が始まりました。永明中学校区(永明小、米沢小、永明中)におけるめざす子ども像は「相手に生きる私」です。新校舎における生活で、ああこういう姿が「相手に生きる私」なんだと思わせられる姿が沢山ありました。

今までの中学校は、義務教育の出口は社会の入口という考えの下、自主自立が強調される傾向にあったかと思います。ですが、実際の社会を振り返ってみると、本当に自主自立だけで人は生きてきたでしょうか。

修学旅行で下り立つ仙台駅には正義のヒーロー「アンパンマン」がいます。「アンパンマン」は、困っている相手に自分の顔を差し出して、自分は弱っていきます。水に濡れても、カビが生えても弱ってしまい、仲間に助けられ、ジャムおじさんに新たな顔をもらって立ち上がります。弱さも持ち合わせ、仲間に助けられて、これがアンパンマンの本当の強さなのだと思います。

仲間と協力し合えた自分、地域の活動で褒めてもらえた自分、友と同じ目標に向かい汗を流した経験などを通して、集団の高まりの中で自分という存在が成長している場面が多くあったことに気がつきます。つまり、他者との関わりの中で、相手(集団)の中で輝く自分(集団の役に立った、自分自身は気がつかなかった良さを見つけてもらった等)があるからこそ自主自立につながっていったのではないのでしょうか。

これが「相手に生きる私」の意味で、今も昔も変わらぬ「生きる力」であり、予測困難なこれからの時代を生きていく上で大切な力とも考えています。この「相手に生きる私」をイメージし、響き合う心、磨き合う行動、自分と向き合う生き方を基軸に学校教育目標を設定し、この学校教育目標の具現こそが「相手に生きる私」の具現ではないかと考えています。温かい教師集団、温かい学校をめざし、新たな学校創りの二年目を踏み出したいと考えています。

2 学校経営の重点 互いを信頼し、互いに学び合える教職員

(1) 信頼される学校

- ①非違行為防止への取り組み 研修の継続「同僚から学ぶ」一人3分の自己主張「接心」継続
 - ・年度当初「いじめ防止対策推進法」「改訂版生徒指導提要」等教育公務員として確認していくべき法規や重要資料を研修で扱い、職員のベースを確認する。
 - ※人権感覚を磨き、暴力、暴言、体罰のない明るい学校に
 - ・わいせつ、スクールセクハラ、パワハラ、体罰の根絶(適切な言葉遣いにも配慮する)
 - ・飲酒運転の根絶(交通法規の遵守)、個人情報管理の徹底
 - ・適切な会計処理(特に学級あるいは部活動等の会計処理)
- ②生徒・保護者の思いに寄り添う 保護者の視点に立つ生徒支援、保護者への対応
 - ・学年主任を中心としたチームでの支援
 - ※生徒指導主事、教務主任、教頭、校長への「報連相」を徹底した集団での支援・指導体制
 - ※初期段階を素早く、的確に、スピード感を持って！
 - ・発達段階、個の背景に思いを寄せる教職員集団 子どもの成長に関わる仕事を生業にしている教育公務員としての自覚を持ち、相手意識に立った支援
- ③不登校対応 こどもサポート Co を中止にした全職員の体制
- ④時間を守る(授業時間、部活動終了時間)徹底 ※米沢方面へのバスへの配慮を。

(2) 地域の学校 連携

- ①コミュニティースクールとの連携
 - ・ジョブギャラリー「キラッと茅野」の継続 生き方教育として本校で大事に育てたい行事！
- ②同窓会との連携 地域に根ざした声を聞く
- ③民生児童委員さんとの連携
- ④まなざしルームとの連携 教職員がこまめに通い連携する。フリースクールとも連携する。

(3) 職員と共に大切にしていくこと 生徒の学び 特別支援

- ①子どもの行為の背景(その子の思いや親の思いなど)に思いを寄せたい
- ②できないことを「責める」よりも、できたことを「ほめたい」
- ③見通しやゴールを大事にした授業、言葉がけ、部活動や生徒会の運営
- ④先生は教えるのではなく支援者する立場 自分で課題を見つけ、行動してみて、成長を褒めていきたい
- ⑤他者(友だち、学級、学年、学校、地域)への貢献ができる中学生の育成
- ⑥大人の姿で見せる(教職員が当たり前のことを当たり前にやる) 朝の読書活動は全員で共有
- ⑦学校は楽しいところ やりたいことがある学校 生徒が主役の行事
- ⑧感動のある授業をめざす あの先生の授業は楽しい 課題がはっきりした授業
 - ・課題把握から定着までをパッケージにした授業

※45分授業への挑戦 定着問題等は宿題任せにしない

- ・スタディタイムの充実 探究 SST 情報モラル 等 有効活用
- ・「教科書を読むだけ5分間予習」を授業前や家庭における学びで取り入れられないか検討
- ・家庭学習 指示される宿題からやがて自主学習へ 小中一貫教育で家庭学習の学び方を整えていく
- ⑨探究の充実と単元内自由進度学習への挑戦
 - ・一律な結果を求める課題(集団に個を当てはめていく学び)ではなく、図書館を使った調べ学習コンクールへの取り組みなどを通して、自分の力をより発揮するための柔軟な学び方を模索し、共に作り上げる協働の学習においても、個が生き生きと輝くようにしたい。

(4) 互いに学び続ける職場 <働き方改革：・同僚性>